※当方のカルナはふたなりです
※ジュオカル、ヨダカル、モブカル匂わせありのジュナカルです
※ショタジュナ、ロリカルナが出てきます
※未成年に対する性的表現があります

黒ウサギの
バブーシュカ

ヘッドレスギ
耳あて

幼稚園に
4歳児を
迎えに来る
保護者

不浄が
頭の
てっぺんまで
まわった
カルナ

木漏れ日の下で / 蕚マ

「雌のように軀をひらけ、カルナ――」

精神負荷の急上昇で思考が一瞬曖昧になるのを堪え、アルジュナは、怒りと恥辱で不明瞭になる自我を必死に手繰り寄せて
現状を把握しようと試みる。
巨大槍が相対する槍を弾き返す、二回、三回。
痩躯は槍の重量を凌駕する技量と精神力で彼の意思に違わず一糸乱れぬ動作で敵を打ち据えた。
重い一撃は、敵性体を地に沈めた。

庇われたのだ、と、アルジュナは歯噛みした。
故意に接敵から遠避けられた。
進んで――――進んでカルナが、アルジュナを護った。
こんな無様は彼にとってはならないことで、この経験は失態だ。
「ラーマか、もうひとりのお前の助力を此方に請うべきだったな」
カルナはにべもなくそう結論づけた。
管制室の予測では三騎三竦みで、状況の折をみて手分けをする算段だった筈が、こうして今はマスター以下数名の仲間とも逸れ、
アルジュナとカルナ二人だけが分断された戦況だった。平野の戦地から離され、追っ手を迎撃しながら森の中へ退避した。
予想より遥かに多くの槍兵相手は弓使いのアルジュナには分が悪く、代わりにカルナが応戦し続けていたが、追っ手の数が
疎らになったのを見計らい、彼等は木陰に身を隠した。
「お前の所為では或るまい」
カルナの気遣いが声音に篭る。

おフェラするとき
髪を耳にかけてほしい

アルジュナよ
お前は童貞だから見た事がないかもしれんが

これが膣だ

昨日も性交しただろうが!!

R18

R-18

ちょッ♡

う、む

そうなのだが

何度してもお前から童貞の匂いが消えんのだ

だからなんだその意味不明な匂いは!!

あとその脚を退けろ!!

お前の筋力Aは飾りか？

ムカ

オレの騎乗Aとどちらが上か

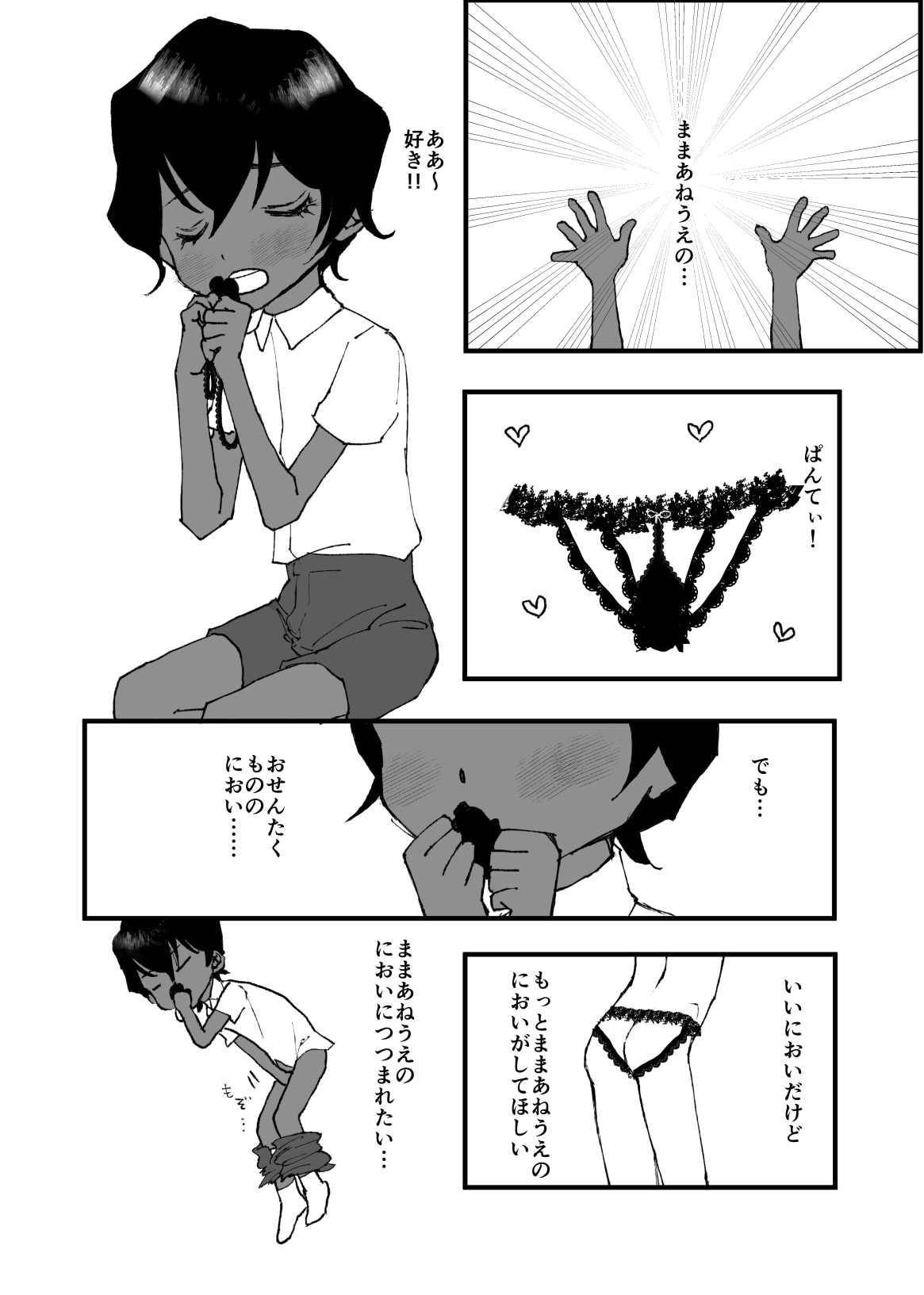
競うか？

ガバッ

ぷるん

手を抜いたな
お前が如何するのだろうと思ってな
何 経験の豊富さではオレの方が上手(うわて)だ
譲るのが年長者というものだろう

味見をしてやるアルジュナ
馬鹿を言え
味を見るのは私だ
良いだろう
ぐ、、
お前の手腕を見せてみろ
オレは期待しているぞ
言われずとも


ままあねうえの…
ぱんてぃ！
ああ～
好き!!
でも…
おせんたく
もののにおい……
いいにおいだけど
もっとままあねうえのにおいがしてほしい
ままあねうえのにおいにつつまれたい…
もぞ…